

18日 金曜

使徒



23:12 夜が明けると、ユダヤ人たちは徒党を組み、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしない、と呪いをかけて誓った。

23:13 この陰謀を企てた者たちは、四十人以上いた。

23:14 彼らは祭司長たちや長老たちのところに行って、次のように言った。「私たちは、パウロを殺すまでは何も口にしない、と呪いをかけて堅く誓いました。

23:15 そこで、今あなたがたは、パウロのことをもっと詳しく調べふりをして、彼をあなたがたのところに連れて来るように、最高法院と組んで千人隊長に願い出てください。私たちのほうでは、彼がこの近くに来る前に殺す手はずを整えています。」

23:16 ところが、パウロの姉妹の息子がこの待ち伏せのことを耳にしたので、兵營に来て中に入り、そのことをパウロに知らせた。

23:17 そこで、パウロは百人隊長の一人を呼んで、「この青年を千人隊長のところに連れて行ってください。何か知らせたいことがあるそうです」と言った。

23:18 百人隊長は彼を千人隊長のもとに連れて行き、「囚人パウロが私を呼んで、この青年をあなたのところに連れて行くように頼みました。何かあなたに話したいことがあるそうです」と言った。

23:19 すると、千人隊長は青年の手を取り、だれもいないところに連れて行って、「私に知らせたいこととは何だ」と尋ねた。

23:20 青年は言った。「ユダヤ人たちは、パウロについても詳しく調べるふりをして、明日パウロを最高法院に連れて来るよう、あ

なたにお願いすることを申し合わせました。23:21 どうか、彼らの言うことを信じないでください。彼らのうちの四十人以上の者が、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしないと呪いをかけて誓い、待ち伏せをしています。今、彼らは手はずを整えて、あなたの承諾を待っているのです。」

23:22 そこで千人隊長は、「このことを私に知らせたことは、だれにも言うな」と命じて、その青年を帰した。

23:23 それから千人隊長は二人の百人隊長を呼び、「今夜九時、カイサリアに向けて出発できるように、歩兵二百人、騎兵七十人、槍兵二百人を用意せよ」と命じた。

23:24 また、パウロを乗せて無事に総督フェリクスのもとに送り届けるように、馬の用意もさせた。

23:25 そして、次のような文面の手紙を書いた。

23:26 「クラウディウス・リシア、謹んで総督フェリクス閣下にごあいさつ申し上げます。

23:27 この男がユダヤ人たちに捕らえられ、まさに殺されようとしていたときに、私は兵士たちを率いて行って彼を救い出しました。ローマ市民であることが分かったからです。

23:28 そして、ユダヤ人たちが彼を訴えている理由を知ろうと思ひ、彼を彼らの最高法院に連れて行きました。

23:29 ところが、彼が訴えられているのは、ユダヤ人の律法に関する問題のためで、死刑や投獄に当たる罪はないことが分かりました。

23:30 しかし、この者に対する陰謀があると

いう情報を得ましたので、私はただちに彼を閣下のもとにお送りします。なお、訴えている者たちには、彼のことを閣下の前で訴えるように命じておきました。」

40 人も人間から命を狙われるというのは、普通なら相当な恐怖でしょう。それも「殺してしまうまでは飲み食いしない」というのですから、彼らは命がけです。これは逃れようがないといえるでしょう。

主のために行動しているのにどうして？と思われそうですが、これもまた神様の知恵によります。40 人も敵がいることによって、パウロは数百人の兵士に守られて護送されたのです。

このように騒ぎが大きくなればなるほどパウロにとっては、結果的に好都合にもなりました。神様の知恵は大きく、またそのご計画は綿密で偉大です。

そのような主を体験することはすばらしいことです。パウロのように、主のためにリスクを負ってみませんか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

